

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 1 報
千葉県農林水産部
令和3年5月24日

植付け後の強風で茎数が少なめです 浅水管理で茎数の確保に努めましょう

〔生育概況〕

3月～4月第1半旬までは気温が高く、苗の生育は進みました。移植作業も順調に進みましたが、4月中下旬は強風・気温の低い日があり、4月植えは活着や初期生育がやや遅れました。その後、5月中旬は梅雨前線が近づき、日照が少なくなり、生育は停滞しています。

強風の影響を強く受けたほ場では、葉先の枯れ、下葉の枯れ上がりなど植え傷みがみられます。また、一部のほ場では、イネミズゾウムシやスクミリンゴガイの食害が多く、藻類や還元障害の発生がみられます。

表 1 品種別の生育状況（5月20日現在）

品種	植付時期	平年比※		
		葉令の進み	草丈	茎数
ふさおとめ	4月20日	並	並	やや少
ふさこがね	4月20日	並	並	並
コシヒカリ	4月20日	並	並	やや少
	5月1日	並	やや長	やや多
粒すけ	4月20日	並	やや短	やや少

※平年比は過去10か年（2011～2020年）の平均値との比較。

ただし、粒すけは過去6年間（2015～2020年）のデータと比較。

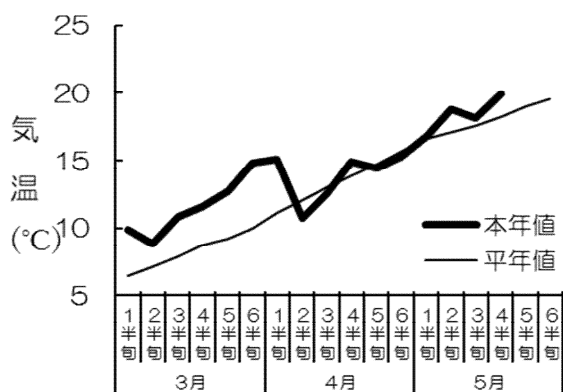


図 1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

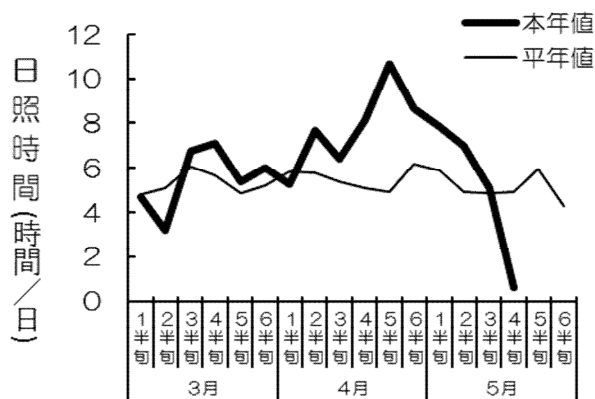


図 2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ ほ場ごとに茎数を確認し、中干しの適期実施

茎数はやや少なく推移しているため、浅水管理で茎数を確保してから中干しを実施します。中干しは、過剰分げつを避ける重要な管理です。適正な茎数確保に加え、根の活性を高めることで登熟向上や倒伏防止につながります。中干し開始の目安は、「表2」を参考にしましょう。

表2 品種別の中干し開始時期の目安

品種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)
コシヒカリ	4月20日	320本/m ²	310本/m ²	300本/m ²
	5月1日	(18本/株)	(17本/株)	(16本/株)
粒すけ	4月20日	460本/m ² (25本/株)	420本/m ² (23本/株)	

※（ ）内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安
極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがある

■ 病害虫の適期防除

病害虫発生予報第2号（農林総合研究センター5月18日）によると、スクミリンゴガイの発生量は「やや多」、いもち病・イネミズゾウムシは「並」の予報となっています。病害虫発生予察情報は、千葉県農林総合研究センター病害虫防除課ホームページをご覧ください。



○スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

スクミリンゴガイは、九十九里沿岸部を中心に被害が発生して、植付直後の水稻苗を食害します。思わぬ集中加害を受ける場合もあり、植付後しばらくは油断禁物です。防除対策では、初期の食害を避けるため、浅水管理や薬剤防除を実施します。また、地域活動により全体の密度を減らす取組も重要になります。



■ イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田でイネばか苗病が発生し放置すると、収量などに影響するほか、胞子が飛んで周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、その採種ほ場では種子としての出荷ができなくなる場合があります。優良な種子の供給に支障をきたす恐れがあります。



稲作農家全体に係る問題ですので、本病の発生が見られましたら、出穂前までに罹病株を株ごと抜き取り、田んぼから離して埋設処理するか焼却するなど新たな感染源とならないよう防除をお願いします。

■ 還元障害（ガス沸き）が見られたら

水はけの悪いほ場や、大雨で稲わらが寄ってしまったほ場では、温度が上がると稲わら等が急激に分解して還元障害が発生し、分げつが抑制されることがあります。その場合には、速やかに落水して土壌中のガスを抜き、根の活力を高めます。

【春夏編】ジャンボタニシの防除対策（移植水稻）

農作業の効率化が期待される技術、機材が生産現場に導入されている状況を踏まえつつ、必要最低限実施すべき対策を例示しました。個々のほ場の状況や田植えの時期などに応じて対策を選択し、総合的な防除対策を講じてください。

田植え時の農薬散布

いつ・どのように

- ・田植え時の被害が出る前に農薬を散布。
- ・貝の発生状況に応じて、全面散布、貝が集まる深水部分の重点的な散布等を実施する。
- ・水温が低いと貝が活動せず、農薬の効果（マヒ効果・摂食による殺害効果）が劣るため、貝の活動水温17℃以上の時に散布する。
- ・確実な効果を得るため、散布後3～4日間湛水状態（水深3～5cm）を保ち、7日間の止水管理が必要。
- ・使用に当たっては、農薬の容器に表示された使用方法等を必ず確認すること。

留意事項

（例）メタアルデヒド粒剤：本貝に対する誘引性があり、摂食による殺貝効果がある。

（商品例：スクミノン、ジャンボタニシくん）

磷酸第二鉄粒剤：有機JAS規格に適合し使用回数に制限がなく、摂食による殺貝効果がある

（商品例：スクミンベイト3）

チオシクラム粒剤：徐々に溶け出し、多雨時でも本貝へのマヒ効果が見込め、食害防止効果がある。

（商品例：スクミハンター）

※田植同時農薬散布機は、均一な散布と作業時間の短縮に効果がある。

田植え後の浅水管理



いつ・どのように

- ・水深が浅いと貝の活動が抑制されるため、田植え後約3週間、水深を4cm（理想は1cm）以下に維持。

留意事項

- ・貝は深水部分に集まるので、水田内を均平にすることが重要。
- ・浅水管理と均平化が困難な場合は、農薬散布との組合せにより被害を防止。

水口へのネット設置（水路に発生している場合）



いつ・どのように

- ・水路で越冬した大型の貝の侵入を防止するため、田植え前の入水時から田植え後3週間まで、取水口・排水口に目合い9mm程度のネットや金網を設置。

留意事項

- ・小さい貝はネットをすり抜けるため、農薬散布や浅水管理を併用するとよい。
- ・網の目が細かすぎると、枯草などのごみが詰まりやすい。

田植え前の石灰窒素

（注）石灰窒素の使用回数は1回のため、秋期に散布した場合には、田植え前には散布できません。

いつ・どのように

- ・水温が17℃以上の時期に、3～4日間湛水を保った後、石灰窒素を散布。
- ・散布後、湛水したまま3～4日間以上維持し、代かきを行う。
- ・稲への薬害を避けるため、散布から7日間以上後に田植え。

留意事項

- ・魚毒性が高いため、漏水を防止し、散布後7日間は落水・かけ流しはしない。
- ・窒素成分を多く含むため、元肥の量を減らす調整が必要。（被害の大きい遅植え栽培や多肥栽培に向く飼料用米品種での使用を検討）
- ・使用に当たっては、農薬の容器に表示された使用方法等を必ず確認すること。



まだ間に合います！

主食用米から

飼料用米

への転換に

取り組みましょう！

- 現在、主食用米は、人口減少等による需要減に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による消費減退も加わり、在庫の過剰に直面しています。
 - 飼料用米への転換が進まなければ、需給と価格の安定が崩れ、危機的な状況に陥りかねません。
 - 田植え後の今からでも、植え付けた主食用品種を、飼料用米に転換することも可能です。
- 皆様の御協力をお願いいたします。

新たに飼料用米（主食用品種）に取り組んだ場合の収入試算
（主食用米の単価が 12,000 円/俵の場合と比較しています）

	主食用米	飼料用米 （主食用品種）
収量(kg)	544	544
販売単価（円/60kg） ※令和2年産（昨年産）の目安価格	12,000	600
販売収入	108,800	5,440
【国】戦略作物助成	-	80,000
【国】産地交付金 生産性向上の取組（複数）	-	3,800
【国】産地交付金 複数年契約の取組	-	12,000
【県】飼料用米等拡大支援事業 拡大支援型	-	6,000
【国】都道府県連携型助成	-	5,000
【市町村】市町村助成	-	α
合 計	108,800	112,240 + α

詳細は、お住まいの市町村、千葉県各農業事務所、千葉県農業再生協議会（043-223-2891）にお問い合わせください。

右のQRコードからも様々な情報を入手できます。御活用ください。

